

サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ

事業報告書

沖縄科学技術大学院大学

人材多様化セクション 水越晶子

1. 事業の背景と目的

第5期科学技術基本計画において、国は女性リーダーの育成・登用等を通じた女性の活躍促進、女性研究者の新規採用割合の増加（自然科学系全体で30%へ）のための取組を進めるとしており、また次代を担う女性の拡大のため、「女子中高生やその保護者への科学技術系の進路に対する興味関心や理解を深める取組を推進するとともに、関係府省や産業界、学界、民間団体など産学官の連携を強化し、理工系分野での女性の活躍に関する社会一般からの理解の獲得を促進する」とされています。第4次男女共同参画基本計画においても、科学技術・学術における男女共同参画の推進のため「研究職・技術職に進む女性を増やすべく、女子中高生、保護者、教員等における科学技術系の進路への興味関心や理解を全国的に向上させるための取組を推進し、次代を担う女性の科学技術人材を育成する。」とされています。これらを踏まえ、「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ」は、県内女子中高生の理系への進路選択を支援すること目的として、OIST 人材多様化セクションと琉球大学ジェンダー共同推進室との連携により2014年度より開催してきました。科学技術分野の第一線で国際的に活躍する女性研究者たちによる講義や実習を通じて最先端の研究に触れ、OIST および琉球大学的女子学生と交流しながら、理系進学に関する進路相談や科学技術に関心のある仲間作りの機会を提供しています。

2. 事業内容

日時：2017年3月27日（月）、3月28日（火）

会場：石垣島天文台

国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター

対象：沖縄県内の高校に在学中の女子生徒30名

（本島から25名、宮古から2名、石垣から3名）

講師：嘉数悠子博士

（国立天文台ハワイ観測所すばる望遠鏡アウトリーチ・スペシャリスト）

高林美咲博士

（ハワイ大学ヒロ校総合文化理学部副学部長、海洋科学部教授）

琉球大学教職員3名、学生4名

沖縄科学技術大学院大学教職員4名、学生2名

主催：沖縄科学技術大学院大学人材多様化セクション

琉球大学ジェンダー協働推進室

共催：沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議

後援：沖縄県

協賛：日本トランスオーシャン航空株式会社、琉球エアコンピューター株式会社

(2) 日本トランスオーシャン航空 (JTA) 整備場見学

那覇空港集合後、日本トランスオーシャン航空の格納庫に移動し、女性整備士の方から仕事内容の説明を受けました。



(3) 国立天文台 VERA 石垣島観測局

電波望遠鏡について説明を聞いた後、見学を行いました。



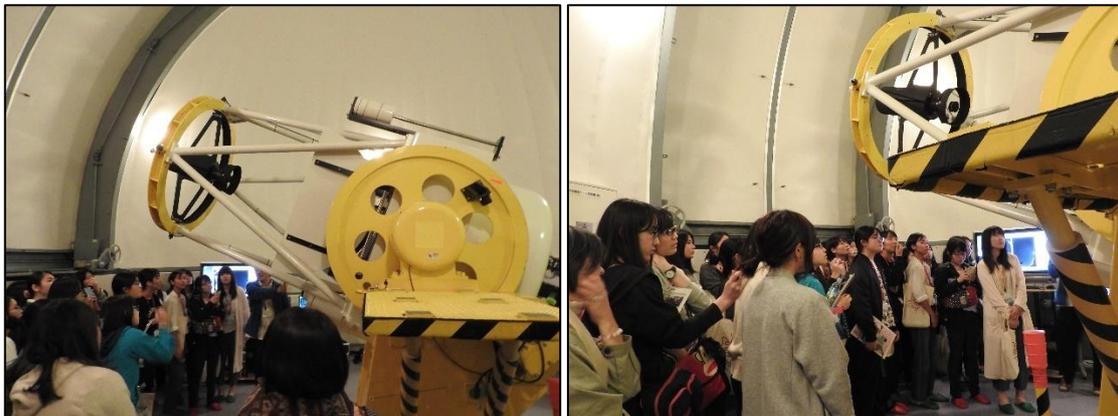
(4) 交流会

OIST および琉球大学の学生から、大学での勉強や研究生活について話を聞いた後、進路指導と交流会を行いました。



(5) 石垣島天文台見学

嘉数悠子博士による講演と天体観測を行いました。



(石垣島天文台ウェブサイトより)

(6) 高林美咲教授による講義

マエサトビーチおよびフサキビーチでのフィールドワークと、国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターで顕微鏡観察等を行いました。



3. まとめ

「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ」は、2014 年度より、沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議および沖縄県のサポートを受けて、沖縄本島内の OIST および琉球大学の施設内で実施してきました。5 回目となる今回は「おきぎんふるさと振興基金」の助成と、日本トランスオーシャン航空および琉球エアコミューターの協賛を得られたおかげで、石垣島内で1泊2日のプログラムを開催する事ができました。募集定員 30 名ところ、130 名の応募があり、書類選考の結果、沖縄本島内から 25 名、宮古島から 2 名、石垣島から 3 名の女子高校生が参加しました。回を重ねるごとに、参加を希望する女子学生が増えてきており、このプログラムに対する認知度が上がってきていると感じています。参加者は、科学技術分野の第一線で活躍する女性研究者たちによる講義や実習、交流会を通じて、様々な理工系分野について知識を深め、研究職や科学技術分野のキャリアに対する興味・関心を高める機会となったと思います。今後も、女子中高校生の理工系分野への進路選択を支援することを目的とし、また、理工系進学を目指す仲間作りの場として、このプログラムを継続していく予定です。また、これまでの参加者が実際に理工系分野に進んだかどうかの調査も実施したいと考えています。



4. 新聞記事等

・八重山日報

八重山日報 2017/4/6 (7面)

沖繩の「リケジョ」目指す

OIST プロジェクトに30人参加

沖繩科学技術大学院大学(OIST)主催の講義や実習を通して最先端の科学を楽しく学ぶ「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズVo1.5」が3月27、28日の2日間、石垣市内で行われ、「リケジョ」と呼ばれる理系の女性研究者や理系の大学生を目指す県内の女子高校生ら30人がサイエンスプロジェクトを体験した。

参加したのは沖繩本島、宮古島、石垣島の各高校の130人の応募の中からレポート提出や書類審査で選出された女子高校生30人。

3月27日午前、那覇空港で女性整備士から航空機整備の説明を受け、空路石垣島へ移動。於茂登岳近くにあるVERA電波望遠鏡を見学後、宿泊ホテルで開かれた交流会・進路相談会に参加した。夜には石垣島天文台

九州・沖繩で最大の10.5m口径の反射望遠鏡の「リケジョ」の皆さん。3月27日夜、石垣島天文台

で国立天文台ハワイ観測所すばる望遠鏡アウトリーチ・スペシャリストの嘉敷悠子博士のレクチャーを受講。天文台職員による天体観望を体験した。

3月28日午前は、八島町にある、国際サン球陽高校新3年の比

ゴ礁研究・モニタリングセンターで、ハワイ大学ヒロ校総合文化理学部副学部長の高林美咲教授による講義を受け、海岸フィールドワークとサンゴの顕微鏡観察を行った。

嘉志緒里さんは「数学や物理が好きで、将来は気象台や天文台に勤務したい。現役の学生や先生の生の声が聞けてうれしい」と笑顔を見せた。

八重山高校新3年の藤本萌友香さんは「先輩たちのトークは興味深くプログラムは初めての体験ばかりで新鮮だった」と述べた。

女子高校生らと交流したOIST博士課程3年のトーマス真紀さん(32)は「参加者は体験や交流で刺激を受け視野を広げる良い機会になったと思う。OISTは海外の学生も多く、学ぶ環境にも恵まれているのでチャレンジしてほしい」と呼び掛けた。

OISTで同プロジェクトを担当する水越晶子さんは「女性が結婚後も子育てしながら仕事を継続する環境が整ってきている。女性が理系を目指すことへの偏見の無理解を改善したい」と期待した。

・琉球朝日放送 (QAB)

「Qプラスレポート OIST × 琉球大学 「リケジョ」石垣ツアーに密着」

<http://www.qab.co.jp/news/2017040489354.html>

5. 追加プログラム

書類選考のため、参加がかなわなかった応募者が100名いたことから、急遽「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ～Vol. 6～」を企画し、2017年5月28日（日）にOISTにて開催しました。これらの100名を中心に告知を行った結果、女子中高生38名およびその保護者21名が参加しました。当日は、国立天文台ハワイ観測所すばる望遠鏡アウトリーチ・スペシャリストの嘉数悠子博士による講演会を行い、OIST生物システムユニットのキセレバ・ラリサ研究員と博士課程学生のウィルクティス・ナディンより、大学での勉強や研究生活、理工系分野の魅力について説明を行いました。また、OIST男女共同参画担当副学長のディルワース・マチより、女子中高生の進路選択に大きな影響を与える保護者を対象に、理工系分野での女性活躍の現状、今後の可能性等の情報提供を行いました。プログラムの最後には、進路指導を含む交流会も行いました。今後も、女子中高生の理工系進路選択への意欲を高め、保護者・教員に対しても、理工系進路選択への理解を図る機会を提供したいと考えています。

